

ベトナムに現地法人設立

海外の重要拠点 グループ一体の受注を目指す

大成ロテック

大成ロテックは、重要な海外拠点となる「大成ロテックベトナム」を今年4月にハノイ市に設立した。親会社の大成建設とそのベトナム現地法人が長年ベトナムで培っ

たノウハウや営業網も活用し、グループ一体となって案件の受注を目指す。

12日にベトナム計画投資省のポー・ホン・フック元大臣をはじめ、計画



投資省・交通運輸省・建設省等の関係省庁、在ベトナム日本国大使館等の国内関係機関、日本・ベトナム両国の大学・関係企業を招待し、設立式典を開催したII写真。

式典では、西田義則社長がビデオメッセージの中で「海外事業展開は弊社の重点施策の一つとして掲げており、ここを拠点としてベトナムに根付き、末永く貢献したい。日本で培った技術・経験を、道路をはじめとする社会基盤整備に生かし、成長著しいベトナムの更なる発展に寄与できればこの上ない喜び」と語った。

また、三宅勝二大成ロテックベトナム社長は「大成ロテックに入社してから40年間、日本では深刻な自然災害などの日々の生活に支障をきたす問題が発生したが、大成ロテックは産官学一丸となってこれらの問題に

取り組み解決してきた。この経験を生かし、ベトナムの発展に伴う諸問題に対しても、十分な解決策を提供することができると確信している」と述べた。

来年に自社工場

リサイクルの仕組み定着へ

また同社は、20年に舗装工事の主材料であるアスファルト合材を製造する自社工場を設立する予定。同工場では、既存舗装から撤去される廃材を再利用する技術を導入し、日本では一般的なアスファルト舗装のリサイクルの仕組みをベトナムにおいても定着させ、同国における環境問題の解決に貢献していく考えだ。